

私の住んでいる屯田は昔から人と馬の繋がりが深い地域です。1889年に屯田兵により札幌で最後に開拓された土地です。そのため、屯田兵に連れられた馬は自然とこの地、屯田との繋がりが結ばれていきました。屯田地区の中に設けられている屯田開拓顕彰広場内に建設されている北区歴史と文化の88選にも認定された7つの碑があります。その中の碑がまさに屯田と馬の繋がりを後世に渡って伝え続けているのです。まず最初に屯田開拓顕彰広場とは、北海道の開拓と国防を目的とした屯田兵の功績を後世に伝えるために作られたものです。広場内には5つの碑が建てられており、1つ1つに意味があります。今回はその中の「馬魂之像」について屯田の住民との繋がりと共に書いていきます。

私が生まれる前からずっと左の前足の蹄をぐっと上げて、顔を真っ直ぐと屯田の地を見渡す様に建てられた馬の立像。その立像はとても立派なもので、今にでも颯爽と走り出してしまうような感覚に陥ります。何十年前までは、実際にこの馬達が屯田の地を歩いていたと思うと感慨深いです。屯田開拓顕彰広場は私の通っていた小学校のすぐ隣にあり、登下校のたびに馬魂之像が目に入っていました。当時はこれが何なのか分からず、馬の立像を見つめているだけでした。初めて馬魂之像含めて屯田開拓顕彰広場について知ったのは、小学校の授業による訪問でした。普段入ることのない屯田開拓顕彰広場に足を踏み入れ、いくつかの碑についてグループで学び自分たちの手でその碑についての資料を作成していました。正直碑に書いてある言葉は難しく、まだ小学生だった私にはよく理解できていなかったかもしれません。ですが、子供ながらに感じる碑に対する人々の想いは伝わりました。小学生の頃は分からなかったのですが、馬魂之像の台座の側面には碑文が記されていました。原文は長いので要約すると「明治22年、石狩平野の荒れた原野を屯田兵が開拓し始めてから百年。その開墾は、人と馬が一体となって行われ、馬が唯一の力として働いたことで、豊かな土地へと変わった。このおかげで、屯田地区の人々は今の豊かで文化的な生活を送ることができる。その功績をたたえ、馬に魂を永く祀るためにこの像を建てる。」という想いが込められた言葉が記されていました。このことからも屯田兵は馬を単なる労働力ではなく、兵士たちの仲間の一員として絆を深めていたのが分かります。高校生になった今、改めてこの事について知り学び、驚いたり誇りに思ったりと様々な感情を抱きました。馬と人、地域の繋がりについて知ろうと思ったのも、この学校教育にあったと思います。私の父の世代から屯田開拓顕彰広場について学ぶ授業がありました。屯田開拓の歴史と今の屯田が昔から忘れられずに伝え続けてられており、学校教育の一部として扱われているのがまさに馬と人が繋いだ絆の具現化した姿ではないのかと思います。近年、この教えは学校から消えていってもまた新しい姿です。私の小学生の妹に屯田開拓顕彰広場や馬魂之像について聞いても知らないとのこと、馬の立像は見てもその歴史までは分からぬのです。私はとても勿体ないと思いました。せっかく馬との歴史がある地域に生まれたのですから、学ばないのは損です。私はこのならではの教育に感心しました。新しく命が誕生すると共に、世代を重ねていく子どもたちは毎朝通る道に建っている

馬の立像に対して何を思うのでしょうか。私は少しでもその気持ちを誇らしさと知識欲の育みになればいいなと思います。少しの疑問が歴史に繋がる、それは今見ている風景を大きく変えるものかもしれません。この馬との歴史の繋がりは、この先も教育の一環として教えていくべきなのです。時代を重ねると共に忘れ去られぬよう、今後も知っていく人が増えるといいなと思います。

人と馬が共に築いた歴史の上に、今の豊かな北海道と生まれ育った地があるのですから。